

FDK全社DXプロジェクト ー進捗報告2023-2024ー

2025年9月30日

FDK株式会社

進化に挑戦 輝く未来と笑顔のために

目 次

1. ご挨拶
2. DX戦略（ものづくりDX、営業DX、全社共通DX）
3. IT人材の育成
4. IT環境整備
5. サイバーセキュリティ対策
6. 成果と指標

1. ご挨拶

当社は現在、デジタルトランスフォーメーション（DX）を推進するための重要な局面にきています。DXの成功は、我々の事業成長と競争力を高めるために不可欠です。

そのためには、全従業員が一丸となり、新たな技術と変革に対する積極的な姿勢を持つことが求められます。

特に日本の製造業においては、若年労働者の減少や人材採用の困難さ、そしてこれまでものづくりを支えてきた昭和世代の人材の退職といった問題が深刻化しています。これらの課題に直面する中、DXは重要な解決策のひとつとなり、DXを通じて、業務プロセスの再設計や自動化を図り、少ない労働力でも高い生産性を維持することが可能となると考えています。

また、データ分析やAIを活用することで、より高度な意思決定や予測が可能となり、競争力を強化することができます。

我々はこれからの時代に対応し、顧客の期待に応えるために、業務プロセスの革新とITインフラの強化、そして人材の育成を進めてまいります。

本書は、そのための当社が推進している施策について現時点の状況を示したものです。

当社の株主様をはじめステークホルダーの皆様に我々の取り組みをご理解いただけますことを期待しています。

Chief DX Officer
DX実務責任者

代表取締役社長 長野 良
取締役執行役員 平野 芳晴

2. DX戦略（ものづくりDX）

環境面に配慮し様々な生産要求にお応え出来る生産システムに変貌するため、デジタル技術を活用し、最適な製造プロセスを有するスマートファクトリーへの変革を目指しています。現在までの活動においては、様々なデータを収集するセンサーの設置に加え、携帯端末を使ったデータ収集からデータ分析までの作業効率を改善しました。また、仕掛品および完成品在庫の最適化、これまで困難だった曲面不良をAIによって仕分ける取り組みなどを推進しております。

主な実施内容

- (1) 歩留表から転記処理業務の自動化
- (2) 出荷発注業務のプロセス見直しによる作業効率化
- (3) 包装工程の見える化：生産状況・稼働状況の可視化
- (4) 計測器校正依頼・固定資産棚卸のデジタイゼーション
- (5) 電子掲示板の機能充実（ソフト開発）
- (6) ロギング、製造設備データのデジタイズ～傾向監視

デジタル技術による製造変革

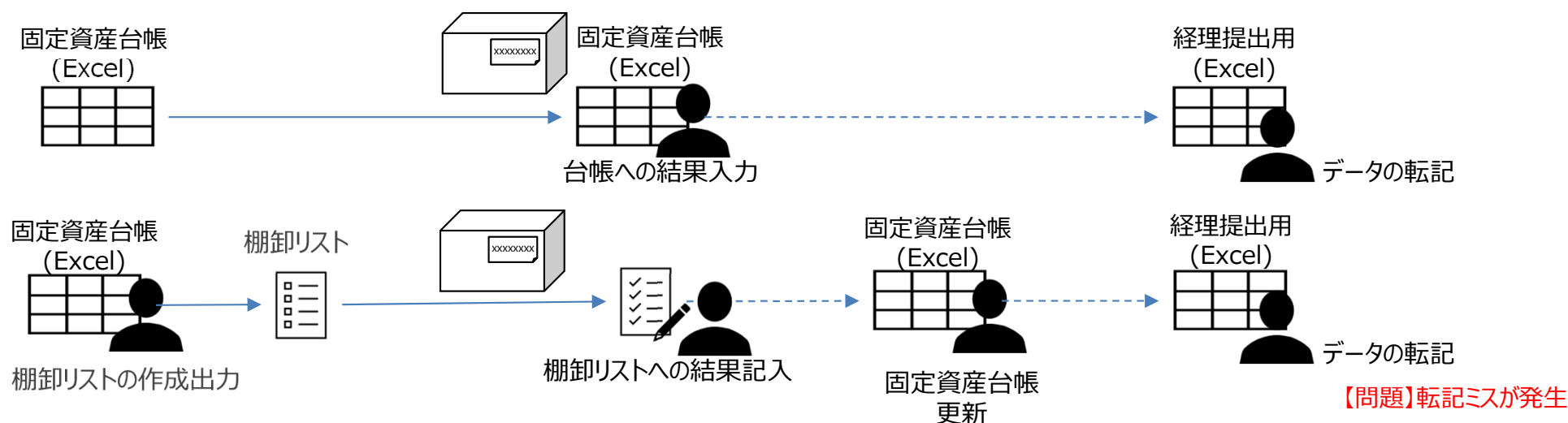


2. DX戦略（ものづくりDX）

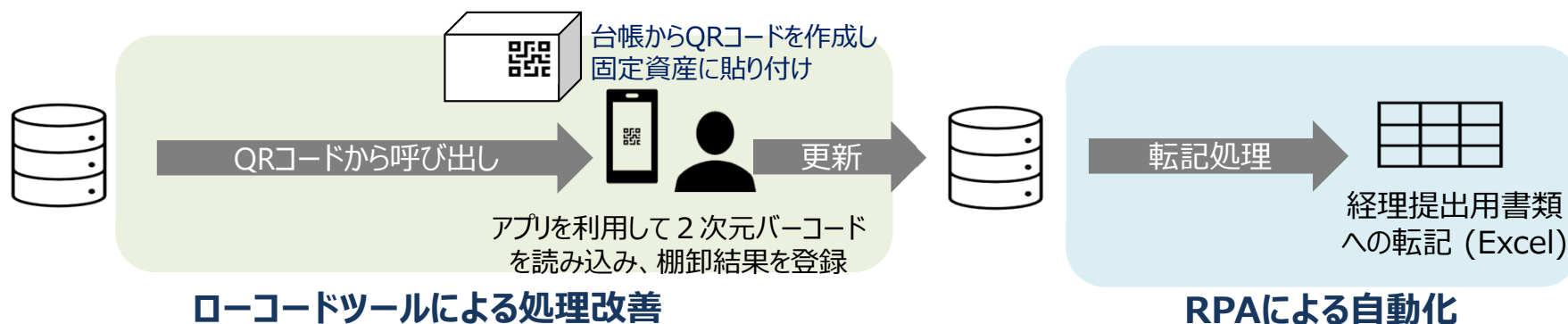
取り組み事例）固定資産棚卸のデジタルライゼーション

固定資産棚卸業務の効率化に向け、**現場主導**で紙・Excelによる従来手法を見直し、携帯端末と**ローコードツール**、**RPA**を活用したデジタル化を実現。作業精度とスピードの向上を実現しました。

Before 固定資産の管理はExcelによる個別管理



After 各部門ごとの台帳を統一しデータベース化。デジタル化による作業効率化を実現



2. DX戦略（営業DX）

お客様におけるプロセスを理解した上で、当社製品の製造から販売までのプロセスを再設計し提案することで、強固な関係と両者利益の創出を目指しています。

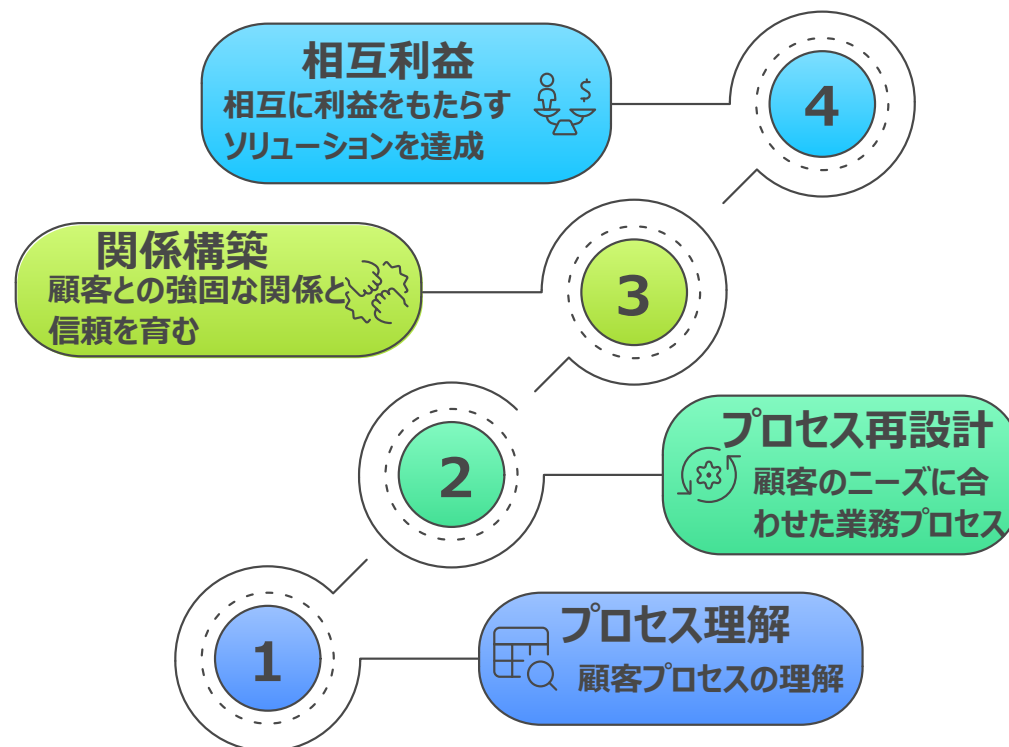
現在までの活動においては、お客様との窓口である販売活動に焦点を当て、販売データと市場環境等を合わせた分析による販売活動の価値向上を計画し販売データ収集の最適化等のため、新しい営業支援システムを導入しデータ収集を開始しました。

主な実施内容

SFAの導入により、顧客情報管理・商談管理業務の効率化を推進

- ・成約確度の高い顧客へのアプローチ強化
- ・商談進捗状況の早期把握と顧客アプローチの補充や追加支援

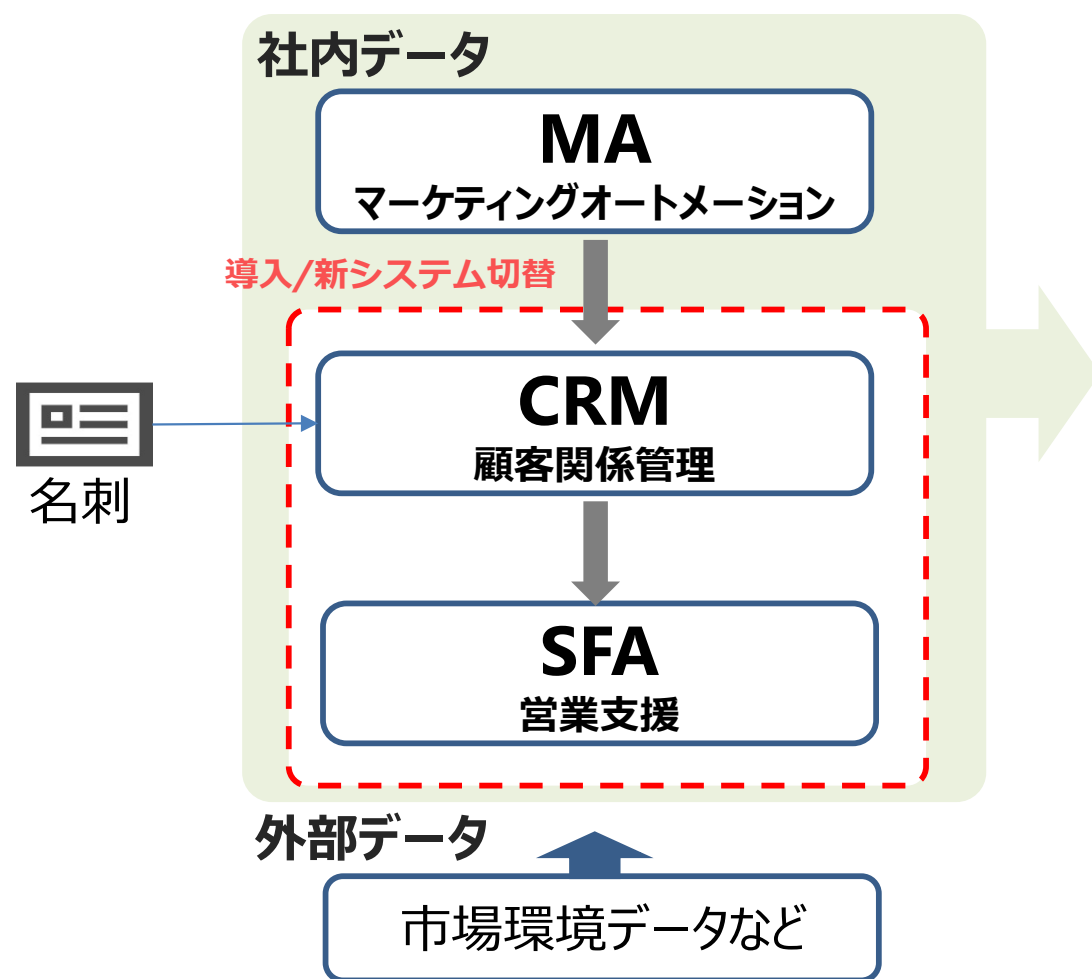
営業DXの達成



2. DX戦略（営業DX）

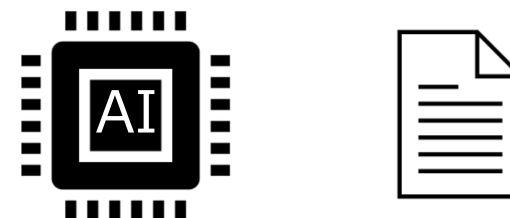
取り組み事例）営業支援の刷新：顧客データ活用によるアプローチ強化の第一歩

従来の営業支援体制を新システムへ移行し、名刺情報や営業報告を一元管理。顧客データの収集・蓄積を開始し、社内外の情報に基づく顧客アプローチ強化に向けた基盤整備を進めています。

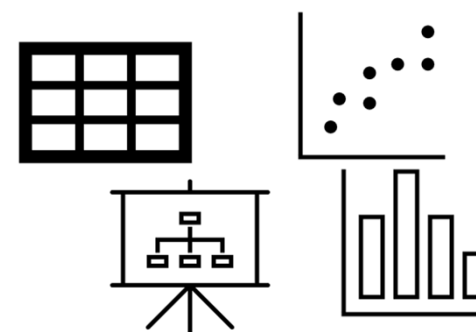


今後の取り組み

■ 生成AIを活用した分析



■ 集計データによる分析



2. DX戦略（全社共通DX）

当社における各部門の業務について、デジタル技術活用の観点から業務内容を見直し、業務再設計の上、大幅な効率化に取り組んでいます。

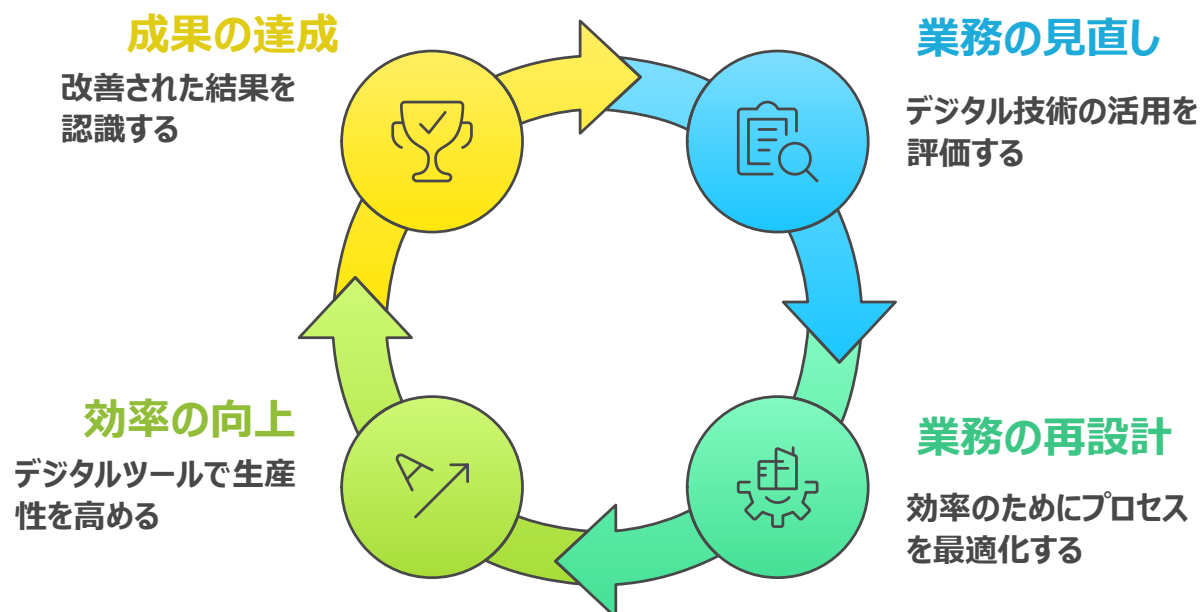
現在までの活動においては、社内コミュニケーション改善、業務の自動化、各種データ分析の早期化、議事録作成のスピード化など大きな成果につながっています。

ツール別業務改善件数

2024年8月～2025年3月

ツール	改善件数
RPA	14件
デジタル化	5件
マクロ/VBA	5件
生成AI	2件
各種アプリ活用等	38件
合計	64件

デジタル変革サイクル



2. DX戦略（全社共通DX）

取り組み事例）RPAによる業務改善

RPA体験学習を通じて、現場が自発的に業務の自動化に取り組むきっかけを創出。定型業務の効率化やミス削減など、多くの部署で活用が進んでいます。全社的なDX推進の土台づくりにも貢献しています。

勉強会開催 10回

期間
2023年10月～2024年3月

RPA主な実施内容

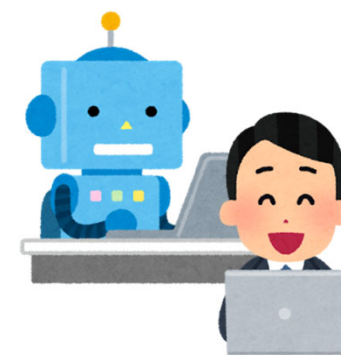
- ・業務システム間のデータ転記作業
- ・前回データとの突合チェックの自動化
- ・月度資料のダウンロードおよび集計処理の自動化
- ・ラベル印字作業の自動化
- ・Web上の外国為替の取得と社内システムデータ更新の自動化

※社内ポータルサイトで各部署のRPA取り組みを共有しています

Before



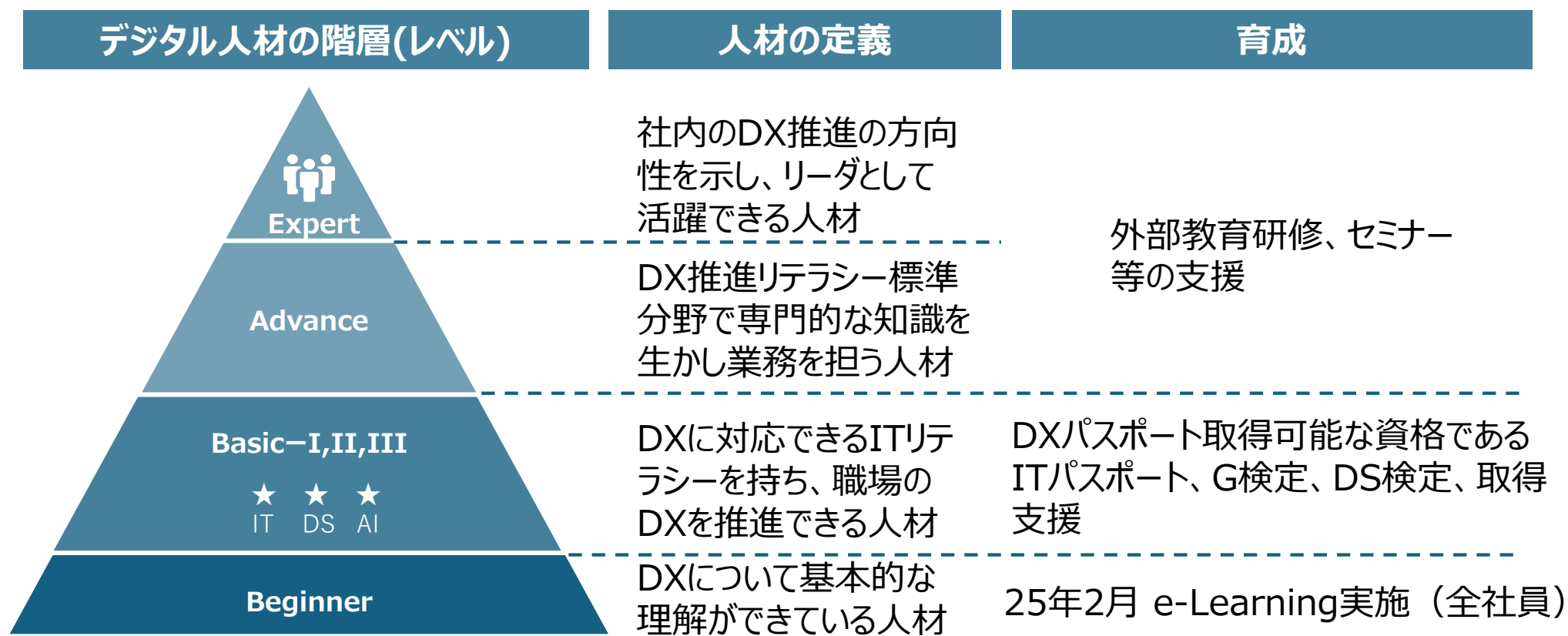
After



PC上の単純作業をRPAソフトで自動化

3. IT人材の育成

当社のIT人材育成は、全従業員が一定の知識とデジタル活用のマインドセットを持つことで、業務効率向上や変化への迅速な適応を図り、個人、組織の持続的な成長につなげることを目的としています。また、2024年度よりITスキルを階層化した「デジタル人材認定制度」を策定し、DXリテラシー教育の実施やリスキリングなどを行なっております。



4. IT環境整備

全社的な視点でのデータ分析や意思決定の迅速化を目的とし、各所に分散しているデータの蓄積・集約を進めています。2024年度は、業務データ連携と集計・分析環境の検討も並行して実施しました。加えて、2024～2026年度にかけて約4億円のIT投資を予定しており、IT基盤強化やセキュリティ環境整備、AI活用などを重点的に取り組んでいきます。

収集

2024年度実施

(1) 業務システムデータの収集

業務システムでよく利用されるデータ

・販売管理システム

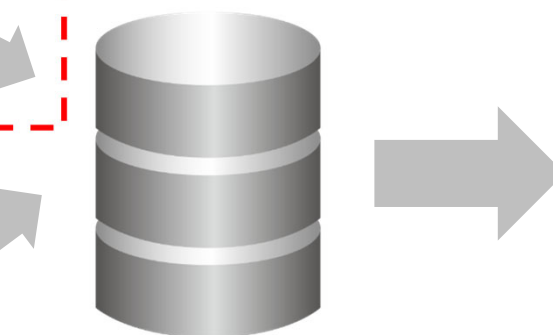
予算・売上実績 データ連携 開始

(2) 分析検証用データの収集

データの分析や検証のためなど
一時的にデータベースを利用したい
場合など環境を提供。

(目的を明確化した上で検証に
必要なデータを収集)

蓄積



クラウドデータベース
(2023年構築済)

集計・分析

(3) データ活用

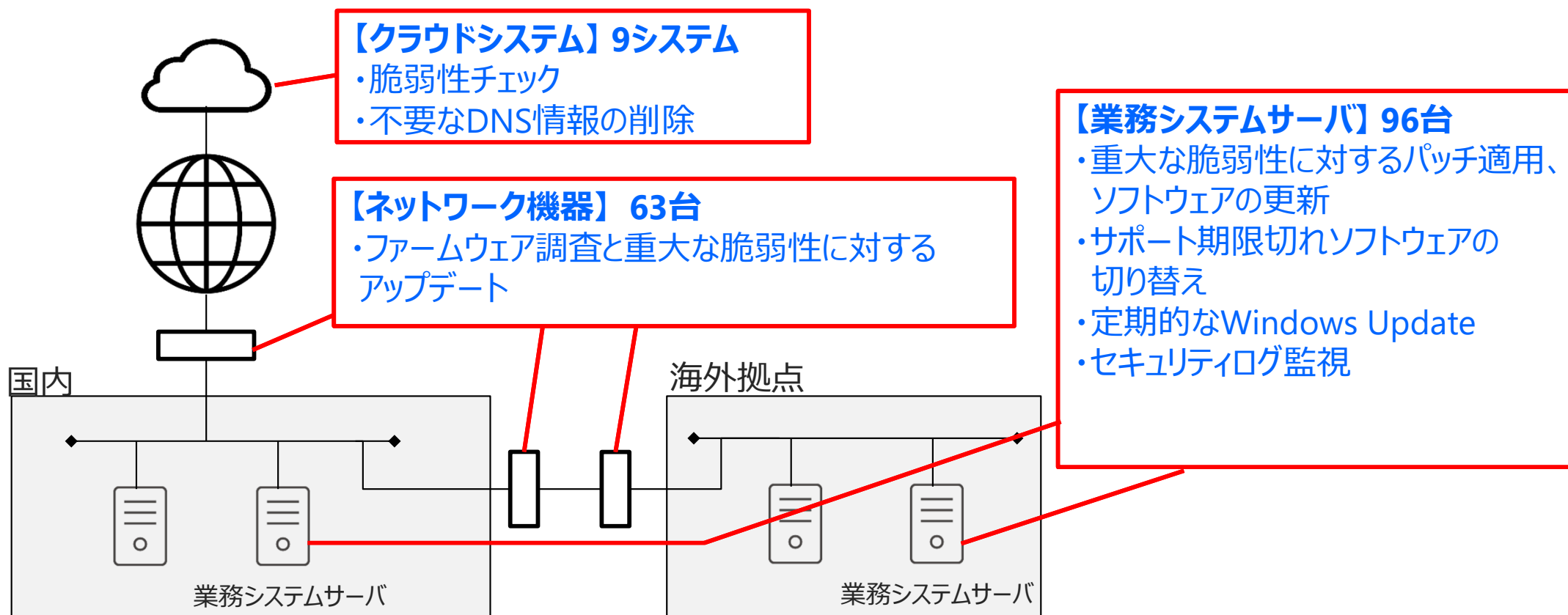
蓄積されたデータを活用し、
ユーザ自身で集計や分析が
利用できる環境を構築



・現在全社で活用できる
データ集計・分析環境の検討

5. サイバーセキュリティ対策

社内ネットワークを安全とみなさない『ゼロトラスト』の考え方にに基づき、マルウェアや不正侵入による攻撃対策を継続的に強化する中で、2024年度は、業務システムサーバおよびネットワーク機器に対する脆弱性対応を重点的に実施しました。



6. 成果と指標

•ものづくりDX

KPI：各工程におけるデジタルツール導入等DXの取り組みによる作業工数の削減時間（時間/月）

年度	実績
2023年	132時間／月
2024年	392時間／月

•営業DX

KPI：デジタルツール等の貢献による売上高の達成状況

（なお、当面、当該DXについては計画の進捗を半期毎に評価しております）

年度	実績
2023年	顧客との商談のデータ整理 - 完了 -
2024年	新SFAの導入 - 当初計画完了 -

•全社共通DX

KPI：新しいデジタルツール（RPA、AI、ノーコード・ローコード等）を活用した業務改善数

（当社では2024年度から上記の改善を個人・グループそれぞれに分けて集計しております）

提案区分	件数
個人提案	56件
グループ提案	8件

6. 成果と指標

•人材育成

KPI：IT 認定（デジタル人材認定制度）を設定し、その認定者数

2024年度	実績
Beginner 認定	1,650名
Basic 認定	16名

•IT環境の整備とサイバーセキュリティ

当社は、各種のデジタルツールを導入し業務の再設計による効率化を推進するとともに、当社ネットワークをサイバー攻撃から守るため、ファイアウォールに加え、IPS/IDS、ウイルス対策、Webフィルタリングなど多層的なセキュリティ機能を統合したUTM（統合脅威管理）の導入を進めています。

FDK

確かな技術 育てる未来